

# 平成 26 年度水産研究成果情報

課題名：有明海佐賀県海域における環境中の有機酸モニタリング

## [背景・ねらい]

海洋の環境中には、炭水化物、タンパク質及び有機酸など、多種多様な有機物が存在しており、これらの有機物の増減には、植物の光合成、河川等からの流入及び微生物による分解などが関係している。

近年、有明海では、夏季に貧酸素水塊が発生し、貝類の大量斃死等が生じている。この貧酸素水塊の発生原因の一つに、環境中の有機物量の増加が考えられているため、環境中の有機物の挙動をモニタリングすることが重要となっている。

そこで、まずは有機酸を対象とし、ノリ養殖期間中(12～3 月)における海水及び海底泥間隙水中の有機酸の挙動を調査した。

## [成果]

海水の調査は平成 23～25 年度、底泥の調査は平成 23 年度にそれぞれ実施した。ノリ漁場内の地点を中心に海水および海底泥を採取し、それらに含まれる有機酸(リンゴ酸、乳酸、クエン酸)の濃度を高速液体クロマトグラフ分析装置により測定した。なお、定量下限は 5～10ppm とした。

その結果、全調査地点において、表層水(0m)および底層水(B-1m)からは有機酸はいずれも検出されなかった(表 1～3)。また、底泥間隙水からも有機酸は検出されなかった(表 4)。

## [課題・問題点]

特になし

## [今後の対応]

有機酸以外の環境モニタリングを継続する。

研究期間：平成 23 年～

研究担当者：ノリ研究担当 中村愛子、三根崇幸

